

LPガスCP速報(2020年8月積)

1. 8月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **365** ^{ドル} (前月比+5 ^{ドル})

ブタン **345** ^{ドル} (前月比+5 ^{ドル})

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が続騰するなか、LPガス需要は、不需求期と新型コロナ感染拡大により低調であったが、サウジの在庫が低水準で推移しているとの見方や中旬以降、韓国の石化、元売からの引き合いもあり、市況は堅調に推移した。CP先物はプロパン、ブタンともに続伸、プロパン・ブタン格差は10~20 ^{ドル} どころで推移。極東CFRは第3週にプロパン345 ^{ドル}、ブタン335 ^{ドル} まで上昇、CP対比ディスカウント幅が縮小してきていた。

全米プロパンは、輸出は堅調に推移したが(グラフ①)、需要は低調、全米プロパン在庫は6週連続の増加で在庫水準は17日時点で前年同期比110%まで積み上げた。米モンベルビュープロパンスポット価格は原油価格に連れ高で堅調も在庫増で上値は限定的、前月比横ばいの256 ^{ドル/ト} どころ(グラフ②)。

フレート市況は上昇した。インドの荷役遅延や減速航海継続、プレミアム市況の米国向け備船など船舶需給が引き締まり、月間平均では前月比10 ^{ドル} どころの反発となった。

ナフサは原油価格に連れ高し続伸、月間平均は395 ^{ドル} どころで、前月比35 ^{ドル} の上昇。

バンカーオイルは原油市況に追随して続騰した。シンガポールIFO380は月間平均で前月比24 ^{ドル} 高の272 ^{ドル} どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同32 ^{ドル} 上昇の385 ^{ドル} どころ、両油種の格差は113 ^{ドル} に拡大した。

8月CPは前年同月比プロパン5 ^{ドル}、ブタン15 ^{ドル} それぞれ安。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン22、ブタン23ポイントそれぞれ下落、前年同月比ではプロパ34ポイント、ブタン31ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	29.8	31.4	37.3	49.5	37.0
CP先物指標：P	345	350	375	370	360
CP先物指標：B	330	340	365	350	346

② 原油市況等

原油市況をみると、7月は39 ^{ドル} 台でスタートし40 ^{ドル} を挟んだ狭いレンジで推移した。OPECプラスの共同閣僚監視委員会(JMMC)が15日にオンラインで開催され、予定通り8月から協調減産規模を縮小(970万b/d~770万b/d)することで合意した。需要は新型コロナ感染拡大による世界各国の移動制限措置が緩和され、経済活動再開に伴うエネルギー需要の回復期待が高まった。一方、米国内原油生産量は1,310万b/dの過去最高から減産が続いていたが、急減していた米石油リグ稼働数が下げ止まり(直近で前年同期比76%減の181基、2009年5月以来の低水準)生産量は1,100万b/dで横這い推移。ただ、製油所稼働率がガソリンシーズン入り後も70%台前半の低水準にとどまり、全米原油在庫は過去最高水準で推移(グラフ③)している。石油需要は回復基調にあるが、ガソリン、留出油は前年同期比1割前後の減少、ジェット燃料は5割減少が続いている。

なお、CFTC発表の大口投機玉の買越残高は21日時点では549千枚、前月末から5千枚増加。買い建玉は69万枚、当業者の売建玉とともに減少している。米株価が世界的な経済活動再開を受けて反騰、各国の金融緩和と政策でコロナバブルの様相を呈しているが、当面はワクチン開発期待と世界的な感染拡大懸念とで綱引きが行われそうだ。

○7月積みアラビアン・ライト(7月1~27日までの想定)は43.30 ^{ドル} (前月比+8.02 ^{ドル})

熱量等価AL100% プロパン 355.02 ^{ドル/ト} ブタン 350.15 ^{ドル/ト}

AL比 プロパン 102.61% ブタン 98.53%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

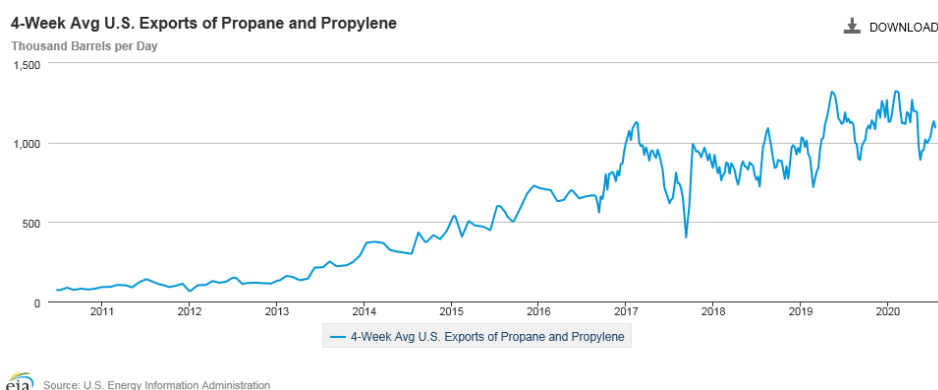
2. 2020年8月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	108.28	44,400	42,200	44,300	+700	+800	+500
②末日締め	108.15	39,200	37,000	39,200	+700	+600	+500

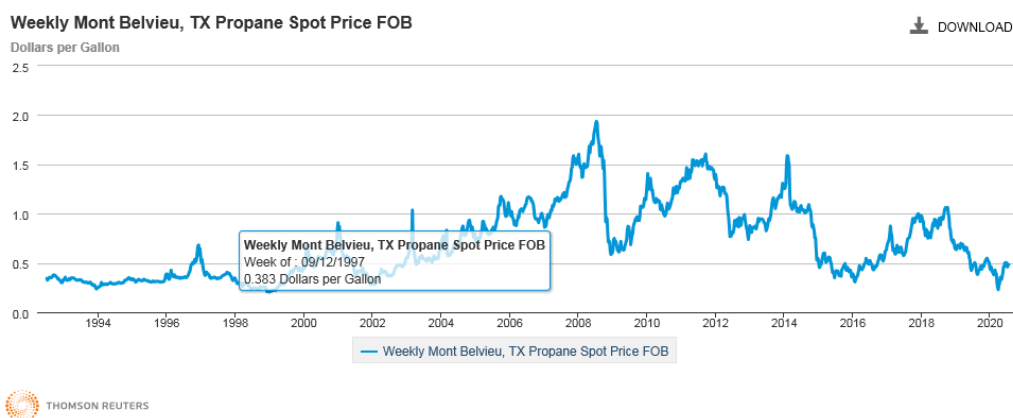
*TTS平均について、①が6月21日～7月20日、②7月1～28日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは3月24日までの価格を基にEINで試算（256ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米プロパン輸出量推移



②米MBプロパンスポット価格推移



③米原油在庫量推移

